

# 「スポーツダイバーにおける環境配慮行動に関する調査研究」

0514016 木村 哲也 (海洋スポーツ・海洋健康科学研究室)

## I. 背景・研究の目的

ダイビングは珊瑚礁や海洋生物などが生息する海洋環境に関心を持ち理解するために適した活動であるとの見方により、海に関わる様々な NPO 団体や環境団体が活動を推進し始めており、ダイビングに対する環境問題期待および教育期待がもたれている。

ところで、海洋環境の保全のためには、海を利活用する者の意識の向上だけでなく、実際の配慮行動が大切である。海を利用する者、とりわけダイバーにおける環境に対する意識や環境配慮行動について検討した事例は見当たらない。そこで本研究では、スポーツダイビングにおける環境保全対策の検討に役立てることを目的とした調査を実施したので報告する。

## II. 研究の方法

ダイバーの環境保全に関する意識と実態を把握するため、静岡県沼津市大瀬崎においてダイバー20歳から69歳までの180名を対象として質問紙調査を実施した。

分析方法にあたり、各質問項目に対する5段階の回答を間隔尺度とみなして環境配慮的な回答から順に5点から1点とし得点化した。対象者について、取り組む立場、経験年数、年齢についての比較を行うため、平均値と標準偏差を算出し一元配置分散分析及びt検定を行った。

## III. 結果

対象者の特性については、ダイビングの経験年数において3年未満で約70%を占め、年齢においても30歳未満が約70%と比較的経験年数が短く、年齢層の若いサンプルであった。34の質問項目について肯定率（よくあてはまる+かなりあてはまる）を算出した結果、肯定率が90%を超えた質問項目は7項目あった。年齢による平均値の差の検定を行った結果、有意差が10項目において認められた。指導者と一般ダイバーによる平均値の差の検定を行った結果、有意差が認められたのは5項目であった。さらに、経験年数による平均値の差の検定を行ったところ、有意差が認められたのは9項目であった。

## IV. まとめ

分析結果をまとめると、指導者のダイバーの方が一般のダイバーより、年齢層の高い人の方が年齢層の低い人より、経験年数の多い人の方が経験年数の少ない人より環境配慮意識が高く、環境配慮行動を行っているということが分かった。従って、ダイバーの環境配慮に関する意識と行動は年齢、経験、取り組む立場と大いに関係があることが示唆された。

加えて、ダイバーの環境配慮に関する認識は高かったものの、環境配慮行動に関する項目についての肯定率はそれと比較すると低い値を示した。今後は環境配慮行動に結びつく要因を検討していく必要がある。

## 主な参考文献

1) 本多芙美子 橋本公雄 吉川政夫:「スクーバ・ダイビングがもたらす快適感情メカニズムの検討」, 日本野外教育学会第11回大会プログラム・研究発表抄録集, pp.96-97, 2008